

2. 事業の目的と概要	
(1) 上位目標	対象地域の生活環境が改善する。
(2) 事業の必要性 (背景)	<p>(ア) 事業実施国における一般的な開発ニーズ</p> <p>ホンジュラス共和国（以下、ホ国）は、中南米の中でも最貧困の一つに数えられ、コーヒー・バナナなど一次産品への依存度が高く、脆弱な経済構造となっている。ホ国政府は、それを改善するために保税加工区における海外製造業の誘致や観光業などの育成を図っているが、その大きな妨げとなっているのが治安問題である。首都テグシガルパをはじめ都市部の治安状況が近年急速に悪化しており、殺人率は82.1件/10万人と世界最悪の数値であることが報告されている（2011年 UNODC 発表）。「マラス」と呼ばれる若年層の犯罪組織などによる犯罪件数の増加が顕著であり、深刻な社会問題となっている。治安状況の悪化は、国家の喫緊の課題であると認識され、ホ国政府は『国家開発計画（2010-2022）』の中で「暴力のない安全な民主主義国家の実現」を4大目標の1つに掲げている。</p> <p>治安の悪化は、人間の安全保障の観点からも、一人ひとりの地域住民にとって脅威であり、日本国の対ホンジュラス国別援助方針の中でも開発課題への対応方針として「経済安定化のための治安改善」が挙げられており、市民安全プログラムが事業展開計画のプログラムの一つとして位置づけられている。例えば JICA は、同国治安省をカウンターパートとし、「地域警察活動支援プロジェクト（技術協力プロジェクト）」を実施し、国家目標の達成を後押ししており、日本の交番システムを導入したブラジル支援の経験を基に、ホ国における地域警察の能力強化を図っている。その一方で、対象の地域住民自身による生活環境の改善（住みやすいコミュニティづくり）に向けた取り組みがもう一つの課題となっている。</p> <p>(イ) 申請事業の必要性</p> <p>本事業が対象とする首都テグシガルパ市南西部に位置する3地区は、特に治安改善のニーズの高い地域であり、上記の技術協力プロジェクトの対象地域となっている。同プロジェクトを通じて訓練を受けた地域警察官は、輪番で各地区の詰所（日本の交番にあたるもの）に24時間待機して、各家庭の個別訪問、地域のパトロール、コミュニティへの啓発、情報収集等の活動を行い、治安向上に取り組んでいる。その結果として、徐々に地域警察に対する住民の信頼が醸成されてきており、警察への相談件数も増えつつある。</p> <p>一方で、同国における治安悪化の背景には、昨今の政治的混乱に加え、深刻な雇用問題、そして都市コミュニティの慢性的な貧困の問題がある。こうした環境下で育った若者は家族やコミュニティの人々からの愛情や優しさに触れる機会を奪われ、希望や自尊心を失い、周囲の人々と信頼関係を築くことができない状況に置かれている。そのような状況の中、非行に走り、犯罪に手を染め、また麻薬に手を出すなど、貴重な人生を棒に振る若者が後を絶たない。また、その結果、地域の生活環境がさらに悪化し、経済活動は停滞、雇用状況も悪化し、貧困から抜け出せないという悪循環を生み、人々が希望を持って生活することができない環境となっている。こうした状況を改善するためには、取り締まる側の警察の能力強化に加え、若者層とコミュニティへのアプローチが必要不可欠である。</p>

	<p>地域警察は学校への出張講座、スポーツイベントの開催などを通じて、徐々にコミュニティへのアプローチを始めている。しかしながら、まだその実施頻度・内容は限定されており、他 NGO 等によるコミュニティレベルの若者に直接働きかける活動は行われていない。</p> <p>この状況に対し、当団体は、2013年3月より日本 NGO 連携無償資金協力事業として、3年計画で同3地区における青少年育成とコミュニティの能力強化を柱とした生活環境の改善に向けた取り組みを行っている。1年次（2013年3月～2014年2月）には、約800名の青少年の育成教育を行い、彼らの中からリーダーを養成するとともに、対象コミュニティの自治会メンバーらを含めたコミュニティ・グループの形成を行い、コミュニティ活動が実施される体制が整備されつつあるところである。これを踏まえて、2年次には、青少年リーダーから他の青少年への教育（ピアエデュケーション）やコミュニティ・グループメンバーによる活動を支援することを通じて、コミュニティが主体となって生活環境を改善する活動を実施する能力を向上させることを目指す。</p>
(3) 事業内容	<p>(ア) コミュニティ・グループメンバーの能力を向上させる。</p> <p>1年次に形成された対象3地区のコミュニティ・グループ(10グループ)の会合の開催を支援し、2年次の活動目的・内容について再確認する場を持つ。その会合での協議内容を踏まえて、コミュニティ活動の実施方法やそのためのネットワークの形成の方法などについて、コミュニティ・グループのメンバーに対して研修を行う。また、コミュニティ・グループのパートナーとなり得るテグシガルパ市内の関係団体と個別に会合を開き、協働で活動を実施できるよう関係を構築する。</p> <p>(イ) コミュニティ・グループが自立発展的に活動を運営していく能力(計画・運営・評価する能力)を養成する。</p> <p>コミュニティ・グループが自ら「住みやすいコミュニティ」活動を計画、実施、モニタリング・評価することを支援することを通じて、同グループの活動実施能力を養う。具体的には、まず各グループが対象コミュニティのニーズ調査を行い、それに基づく活動計画を行う。その計画に沿って、地域奉仕活動(地域清掃、救急処置などを想定)やレクリエーション活動(サッカー、手芸などを想定)を実施し、その内容をモニタリング・評価する。またその過程で、上記活動(ア)の関係団体との協力関係を活用する。本事業スタッフは、コミュニティ・グループのメンバーがこれらの活動を主体的に実施していくのを側面から支援する形をとる。</p> <p>(ウ) 地域の青少年を育成する。</p> <p>1年次に育成された青少年リーダー約50名に対して、他の青少年に教育(ピアエデュケーション)を行う方法を身に着けるための実践的な研修を行う。同研修を受講した青少年リーダーらがピアエデュケーション活動を計画し、約300名の青少年に対して実施し、モニタリング・評価する。本事業スタッフは、青少年リーダーが主体的に活動を実施していくのを側面から支援し、彼らの活動実施能力の向上を図る。</p> <p>(別添2:活動内容の詳細参照)</p>

<p>(4) 持続発展性</p>	<p>本事業は下記のとおり 3 年計画として実施されている事業の 2 年目に位置する。</p> <p>1 年次：体制構築（青少年リーダー育成、コミュニティ・グループ形成）</p> <p>2 年次：<u>体制強化（青少年リーダー含むコミュニティ・グループによる活動実施を通じたコミュニティ活動実施体制の強化）</u></p> <p>3 年次：体制確立・モデル化（活動の発展、主体的なコミュニティ活動実施体制の確立とモデル化）</p> <p>2 年次には、1 年次に育成された青少年リーダーを含むコミュニティ・グループが青少年へのピアエデュケーションや地域奉仕活動・リクリエーション活動などを実施していくことを通じて、主体的に活動できる能力を養成するとともに、テグシガルバ市内の関係団体の協力関係を構築することで、コミュニティ活動を実施する体制を強化する。また、3 年次には、収入創出活動を取り入れるなど、コミュニティでの活動を発展させることで、コミュニティ・グループの能力の更なる強化とコミュニティ活動の一層の自立発展を図り、実施体制の確立とモデル化を目指す。</p>
<p>(5) 期待される成果と成果を測る指標</p>	<p>(ア) 裨益者数 直接裨益者：コミュニティ・グループメンバー約 50 人 青少年リーダー 50 人 （うち 30 人が上記グループメンバーに含まれる。） 対象地区の青少年約 300 人（2 年次） コミュニティ活動に参加する地域住民約 300 人 間接裨益者：対象地区の住民約 30,000 人</p> <p>(イ) 期待される成果 <u>事業目標：対象地域においてコミュニティ・グループと青少年主体による「住みやすいコミュニティ」づくりを目指す活動の実施体制が強化される。</u> 指標 1：コミュニティ・グループの 8 割がコミュニティ活動を実施している 指標 2：青少年リーダーの 8 割以上が活動を継続している 指標 3：コミュニティ・グループと地元関係機関との協力関係が構築される。 指標 4：地域の青少年によるコミュニティ理解が深まる。</p> <p><u>成果 1：コミュニティ・グループメンバーの能力が向上する。</u> 指標 1-1：コミュニティ・グループメンバーの 8 割がフォローアップ研修に参加する。 指標 1-2：コミュニティ・グループメンバーの 7 割以上が、研修内容に関する知識・能力が向上したと認識する。</p> <p><u>成果 2：コミュニティ・グループが自立発展的に活動を運営していく能力（計画・運営・評価する能力）が養成される。</u> 指標 2-1：全コミュニティ・グループが「住みやすいコミュニティ」づくり活動計画を策定できる。 指標 2-2：コミュニティ・グループメンバーの 8 割以上が、活動モニタリングに参加する。 指標 2-3：コミュニティ・グループメンバーの 7 割以上が活動の実施状況及びその成果について把握している。</p> <p><u>成果 3：地域の青少年が育成される。</u> 指標 3-1：全青少年リーダーがフォローアップ研修に参加する。 指標 3-2：フォローアップ研修参加者の研修理解度が 8 割を超える。 指標 3-3：青少年育成活動が計画され、その 8 割が実施される。 指標 3-4：ピアエデュケーション対象者の 8 割以上が、内容に関する知識・能力が向上したと認識する。</p> <p>（統括表 参照）</p>